

日之影町国民健康保険病院院長の上田修三と申します。内科診療を担当しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

前は院長就任直後に拙文を掲載していただきました。以来5年間の経過しましたが当院を取り巻く医療環境はますます厳しさを増しつつあるようです。平成の大合併、新臨床研修制度、後期高齢者医療制度、2年毎の診療報酬改訂、公立病院改革プラン、そのたびに病院の存続が危ぶまれ、まさに「風前の灯」の思いで毎日を過ごしてきましたが、「首の皮一枚のところで何とか耐えている」というのが実感です。

不採算の僻地医療や社会的入院といわれる多くの長期入院患者を抱え、町の一般会計からの多額の繰入金に頼らねば経営収支が大きく悪化する状態が長年続いており、我々の経営努力は螻蛄の斧でしかありません。

こんな悪状況下でも何とか病院が存続し医療を継続し得たのは、地域医師会の先生方の御協力と御指導によるところが大きく、紙面をお借りし改めて御礼申し上げます。また県立延岡病院をはじめ県北部の各病院の先生方には救急患者様や我々の手に余る患者様の受け入れをいつも御寛容をもち御許可いただき感謝に耐えません。

当院の医師は常勤医師3名であり以前より1名減っております。厳しい医師不足の中、宮崎大学第二外科医局から常勤医1名と週末の当直医派遣の御支援

を継続していただき、大変ありがたく思っております。非常勤医師の先生方の御協力で何とか「標欠」医療機関への転落を免れていますが苦しい状態が続いています。

日之影町は急激に高齢化と人口減少が続いており高齢化率はついに40%を越え、4人に1人は75歳以上となってしまいました。

このような高齢者数の増加に伴い、当院の外来・入院患者数は徐々に増加しています。しかし、この傾向は一時のもので、やがて間もなく患者数は減少に転じて行くことが推測されます。それゆえに、時代の流れに逆らう高額の機器や施設の整備、人員の拡充は長期的にみて困難です。過度な投資を控え、現存の人員で忙しさを克服し、将来避けて通れないであろう病院のスリム化を念頭に職員一同努力を続けています。

本院は町内で唯一の医科の診療施設でありますので課せられた業務は日常診療、保健、福祉、行政など非常に広範囲に及んでいます。診療内容はプライマリケア全般で、1次救急医療を行っています。医師が3人しかおらず専門外の疾患、重症の患者様は対応が困難です。また外科手術も行えません。このような患者様や一部の2次救急医療対象の患者様を町外の医療機関にお願いしていますが、受け入れて下さる医療施設にも患者様にも御迷惑をかけ大変心苦しく思っております。

現在西臼杵郡には常備消防組織が無く、町独自の患者搬送車が救急患者の搬送に従事しています。平成23年度には待望の西臼杵郡消防組合が誕生し専門職による救急車運用が始まるようです。初期救急処置により救命率向上が大いに期待されます。しかし担当地域は広大な3町全体に及び、現場到着所要時間が現在よりも増大するといった心配も巷ではささやかれています。

地域に密着した医療を目指し、在宅療養中の患者様方への往診や定期的な僻地巡回診療を地道に継続しています。しかし独居老人や高齢者夫婦のみの世帯が多くなり、病院に入院し治療が完結しても介護が必要な状態となれば簡単には自宅退院できず、施設も満床で入所もままなりません。気づけばいつの間にか、社会的入院をやむなく長期継続する患者様の数が全病床（50床）の半数近くに及んでいます。インフルエンザ流行時など急激に入院需要が増加すると、病床が不足する状態になりつつあります。社会的入院患者の受け皿として介護保険入所施設の増床が望まれ、各方面に陳情していますがなかなか簡単ではなく頭を痛めています。

日之影町と当院にとって明るい話題もあります。日之影町は全国に先駆け、森林セラピー基地の認定を国より受けました。「いわゆる森林浴」と「森林セラピー」の違いは、その効果が科学的に立証されていることです。認定に先立ち「治験」が行われ、同一の被験者が指定地（日之影町）と都市に滞在し、分泌される

ストレス感受性物質や血圧、脈拍といった身体所見が計測されました。その結果、日之影町の森林滞在は都市生活より心身ストレスを軽減する効果があることが示されました。ドイツではすでに森林セラピーがストレス性（心身）疾患治療に取り入れられて効果をあげており、滞在費などが健康保険給付対象となっているそうです。国民みんながストレスを感じている現代の日本社会にとっても有用と考えられ森林有効利用を図る林野庁などで以前より研究されていました。

私を含め病院職員の有志が実際に指定コースを散策し、その前後でストレス物質である唾液腺アミラーゼ分泌量や血圧、脈拍等を測定したところ確かに効果を認め再認識しました。当院ナースがこの結果を宮崎県国保地域医療学会にて発表しています。

平成20年度には県内外より約1500人の方が宿泊ツアーに参加され町を訪れました。個人的にセラピーに訪れた方も多く町観光の起爆剤として期待されています。私もいくつかのツアーに参加し「健康相談」を行いました。皆様の反応は良好で、将来はツアーと簡単な人間ドック、健康相談を組み合わせることで病院の増収にも貢献できないか検討する余地有りと考えています。

まとまりのつかぬ内容となってしまう恐縮ですが以上をもって当院の近況報告とさせていただきます。地元に着し、町民が気楽に来院できる、親切で頼っ

ていただける病院を目指し職員一同努めて参りますのでこれからもどうぞよろ
しくお願い申し上げます。

